

令和5年 第2回北九州市立図書館協議会 会議録

日時： 令和5年5月24日(水) 14:00～16:30

場所： 小倉北区役所 8階 811・812会議室

出席者

○委員(会長他12名、欠席委員2名)

北九州市立大学前図書館長	中尾 泰士(会長)
北九州市学校図書館協議会副会長	本田 壽志
北九州市学校図書館協議会会長	上満 佳子
福岡県公立高等学校校長協会北九州地区会長	谷川 陽一
(一社)北九州市私立幼稚園連盟理事	麻生 恭子
北九州市PTA協議会副会長	福田 百合加(副会長)
(一社)北九州市保育所連盟副会長	北野 久美
公募委員	山中 啓稔
北九州市社会教育委員	宮本 和代
北九州市婦人団体協議会監査	吉松 喜美子
北九州市障害福祉団体連絡協議会会長	林 芳江
九州国際大学図書館長	山口 秋義
公募委員	鈴木 研

○事務局(中央図書館長他9名)

中央図書館長	柴田 憲志
中央図書館副館長、子ども図書館長	金子 二康
中央図書館運営企画課長	藤原 定男
中央図書館奉仕課長	綾塚 由美子
中央図書館運営企画課庶務係長	内徳 誠治
中央図書館運営企画課デジタル企画係長	佐藤 孝徳
中央図書館奉仕課奉仕係長	堀尾 節子
中央図書館奉仕課資料係長	善家 三知代
子ども図書館企画係長	荒田 智代
子ども図書館学校図書館支援係長	北谷 真司

○傍聴者 1名

会議次第

- 1 新委員紹介
- 2 副会長選出
- 3 議事(1)令和5年度北九州市立図書館の目標について
議事(2)「これからの図書館のあり方」について(諮問)
- 4 その他

1 新委員紹介

事務局より新委員の紹介

2 副会長選出

北九州市立図書館規則第17条に基づき、副会長選出を行う。委員からの推薦により決定。

副会長 北九州市PTA協議会 福田 百合加

3 議事

(1) 令和5年度北九州市立図書館の目標について

資料に基づき、事務局から説明。

<令和5年度 事業目標>

1. 図書館サービスのさらなる充実を目的に障害者サービス・多文化サービス・若者向けサービスを強化する
2. 市民の様々な課題解決支援を目的に近隣の地域施設団体学校等との連携を図りながら、図書館のサービスを充実する
3. 子供の読書活動推進を目的に子供図書館の拠点として、読み聞かせボランティアで育成支援、子供司書などの養成に取り組む

(委員)

1.の若者向けサービスの強化について、学校ですでに取り組んでいる部分はあると思うが、行政側で何か具体的な施策があるのか。

(事務局)

一案としては、学習室に来る学生たちの目を引くような展示をするなどして図書館のことを気にしてもらえるような取組を考えている。具体的なところは、委員の皆様の意見も聞きながら深めてまいりたい。

(事務局)

子ども図書館では現在、ジュニアサポーターといって中学生・高校生が司書のような役割をこなしながら読書活動を体験する取組をしている。また、小学校高学年と中学生を対象とした「子ども司書養成講座」を開いて、図書館で一定期間をかけて学び、学校で読書リーダーとして活動できる児童生徒を育成していく取組も行っている。こういった取組を、地道ではあるが広げていきたいと考えている。

(2) 「これからの図書館のあり方」について(諮問)

<資料「これからの図書館のあり方について(諮問)」に基づき、中央図書館館長より協議会
に対して諮問>

(事務局：館長) <諮問文の読み上げ>

(会長) <諮問を受ける意思確認>

館長よりこれからの図書館のあり方についてこの協議会に諮問を受けたが、お受けしてよ
ろしいか。<全員の承諾後>では、今後この図書館協議会で審議を重ね、答申を作成してい
きますので、皆様のご協力をお願いします。

<資料および提示スライドに基づき、「これからの図書館のあり方(以下「あり方」)」の内容、
答申に向けたスケジュール、図書館を取り巻く状況について事務局より説明>

(事務局)

説明内容

- ア 「あり方」の答申とは何か
- イ 作業工程：「あり方」(答申)と北九州市立図書館基本計画
- ウ 図書館協議会における答申に向けたスケジュール
- エ 図書館を取り巻く状況
(北九州市立図書館について、国や市の動向、他都市の事例)

(委員)

最初の説明で、7年おきに検討を行ってきたという話があったが、この7年というのは他の
基本計画等においても通例なのか。過去に3回見直しを行ってきて、7年というのが妥当なス
パンだと考えるか。

(事務局)

7年が通例というわけではない。

(委員)

今回はいいとしても、こういった検討のスパンについては、他の計画の見直し期間や図書
館の事情なども考慮して、どのくらいの期間で計画するか念頭において今後検討するのよ
いかと思った。

(事務局)

これまでの答申においても、期間が7年と明確に設定されているわけではない。今回諮問
し答申を受ける理由として、これまで7年ごとであったため一つの目安として考えたのと、関
連する状況として教育プラン(：教育委員会の計画)の見直しが今年度行うタイミングである
こと、また、市長が変わり、新しい市の計画が作られるであろうこともあり、機を合わせて見直
すのがよいとした。今後の計画がどれくらいのスパンがよいかということについては、また考
えていくことになると思う。補足まで。

<協議：「北九州市立図書館の良いところ」「改善の余地があるところ」について、事前配布資料を参考にしながら、各委員より意見徴収>

- = 北九州市立図書館の良いところ
- ⇒ = さらに良くするための案
- ◆ = 北九州市立図書館の改善の余地があるところ、未着手の(取り入れてほしい)取組

委員 A	<p>○訪れやすい場所</p> <p>○市民が生涯にわたり読書に親しめる環境づくり ⇒さらに良くするために： 学校とのさらなる連携(小学校のうちに必ず一度は見学をする取組を中学校にも拡大する。)</p> <p>◆子どもたちの読書への興味関心を高める取組 一人一台端末(タブレット)の活用など。</p> <p>◆学校図書館職員との連携 さらに連携を強めて、読書好きの子どもを育てるためにアプローチする。</p>
委員B	<p>○読書の意欲喚起(読書通帳機) ⇒さらに良くするために： 子ども図書館に足を運べない子どもたちへの対応を考える。通帳を忘れても紙ベースでもらえて後で貼る、といった取組をしてはどうか。</p> <p>◆地域文化創造のための役割強化 人が出会ったり語り合ったり交流する場になるよう、利用者にとって身近な人のイベントや展示会を実施してはどうか(例えば子どもの習っている習字の先生の展示会など)。</p> <p>◆SNSの活用 新規の利用者を増やすためには必要。せっかく良い取組をしているのに知られていない。読書層を増やすために、努力していることなどをPRしていくことが必要である。</p>
委員C	<p>○世代を超えた知識の提供(=学校は特色や発達段階に応じた図書を所蔵しているが、図書館へ行けば幅広い蔵書があるため、いろいろな経験ができる。)</p> <p>◆学生の職場体験の機会充実 子どもたちが大人になったときに図書館に対してさらに支援ができるよう、学生の職場体験(インターンシップ)の場として受け皿をもっと充実させてほしい。</p>
委員 D	<p>○ボランティアの方の貢献度・熱意の高さ</p> <p>○図書館協議会の充実</p> <p>◆バリアフリー対応 図書館に入ってから構造上のバリアフリー対応はできているが、図書館</p>

	<p>に入るまでの動線などを検討してほしい(例えば、車いすを借りるために一時停車するスペースの確保など)。</p>
委員 E	<p>○立地の良さ</p> <p>◆子どもの言葉・情緒を育てる取組 子どもの人権を保障し子どもが自分で意見表明できるようにするためには、自分の思いを伝える語彙力・表現力が必要。また、YouTube などでは得られない、図鑑のように自分で探し求める楽しみを味わってもらいたい。素敵な日本語、外国語があふれている図書館でそういった学びを育てる研修や、お互いに本を読みあう時間を設けてはどうか。</p> <p>◆幼保小連携の取組への参画 幼児教育と小学校教育をつなげる取組を図書館が企画するなど、場を提供してはどうか。</p> <p>◆図書館という場の活用 さまざまな連携が実現するために図書館という場の共有の仕方が重要である。</p> <p>◆SNSの活用 意識の高い人のためのホームページに対して、意識してほしい人たちへのアピールのためのSNS、どちらも必要と思う。SNSでは全く意識していなかったことに目が留まり興味をもつということもあるため。</p>
委員 F	<p>それぞれの良い点を活かして、さらなる利用を促す取組をしてほしい。</p> <p>○外国人市民対象の図書館ガイドツアー ⇒さらに良くするために： 対象を外国人以外にも広げる。月1回程度の定期開催にしてはどうか。</p> <p>○ブックスタートの配布率の高さ ⇒さらに良くするために： 最終目的は配布することではないはずなので、親子の読書推進・図書館利用につなげるような仕組みを考えてはどうか。</p> <p>○子ども向け電子図書館の導入 ⇒さらに良くするために： 子ども向けだが大人も利用できるように改善してはどうか(大人が利用すると子どもも利用する、ということがあるため)。</p> <p>○地元ゆかりの作家作品の充実 ⇒さらに良くするために： 文学館や漫画ミュージアムとの連携をしてはどうか。</p> <p>○レファレンスサービスの充実(データベース) ⇒さらに良くするために： もう少し増やしてほしい。</p> <p>○特色ある建築物(中央図書館) ⇒さらに良くするために： 図書館の特徴をアピールできるようなパンフレットがあるとよい。</p> <p>○貴重資料(CIE 図書、小倉藩資料など) ⇒さらに良くするために： 館内のどこかに貴重資料を紹介する掲示物がほ</p>

	<p>しい。</p> <p>◆地元資源の有効活用 地元サッカーチームを地域の文化財ととらえ、図書館でアーカイブ化をすすめてはどうか。</p> <p>◆有事の際の読書保障対応 非常事態下で読書を保障するための手だてを図書館として準備しておくべきである。また、そういったときこそひまわり文庫を有効活用できるようにしてはどうか。</p> <p>◆ボランティアのさらなる活用 ボランティアの方が活躍する場として、市民センターにおけるひまわり文庫の管理を常時してもらって、そこで読み聞かせを行ってはどうか。また、第5期子ども読書推進計画の中にある子どもと読書を結びつける手だてを参考に、ボランティア養成の項目に読み聞かせ以外の項目(ビブリオバトルなど)を少し追加したら読書活動が広がるのではないか。</p> <p>◆若者からの意見聴取 他市のように、学校の図書委員の集まりを開くなど、各学校の図書委員が集まって交流する場を設けることで、若者の意見を知ることができ、若者の利用につながるのではないか。</p>
委員 G	<p>○「図書館の使い方」が日本語の他に4か国語で準備されている。</p> <p>○蔵書検索(OPAC)が日本語だけでなく英語でもできる。</p> <p>◆ホームページの充実 図書館ホームページについて、日本語だけでなく外国語対応するべきである。</p> <p>◆学生人材の活用 外国人対象の図書館ガイドツアーで、市内の学生ボランティアの活躍の場を設けるとよい。外国語が得意な学生に関わってもらうことで、教育的な効果も期待できる。</p> <p>◆外国語図書の充実 外国人の目線で必要とされている本を提供できるよう、外国人による選書会を実施してはどうか。</p> <p>◆市民調査の対象者拡大 外国人利用者の抱える困難やニーズを把握するために、ヒアリング形式で外国人にも調査を実施するとよい。</p> <p>◆国や他団体との連携 国や他団体が主催するコンクール(高校生ビジネスプラングランプリ、統計グラフコンクールなど)への学校・家庭の参加に対する支援を行うとよい。</p> <p>◆貴重資料の活用(展示) 利用者増につなげるために、市立図書館が所蔵する貴重な資料を中心に、展示会を実施してはどうか。</p>

委員 H	<p>○アクセスのよさ(=バス路線に囲まれている、憩いの場・公園の真ん中にある。)</p> <p>○バリアフリー対応(=障害のある人も外国人も「読書困難者」と大きくくりに考えている。)</p> <p>⇒さらに良くするために： 読書困難者について、「高齢者」「子ども」「障害者」のように細分化するのではなく、「4つの不自由」の視点からバリアフリーについて検討すると、より合理的な取組ができるのでは。</p> <p>*4つの不自由…「動くこと」「見ること」「聞くこと」「理解すること・伝えること」</p> <p>◆ホームページの充実 視覚障害者がホームページを利用できるように、読み上げ対応がされているのか点検してほしい。</p> <p>◆生涯学習・調べ学習への支援 調べものをする際などに、ビジネス用語や専門用語を参照できるよう、電子辞書の貸し出しなどがあるとありがたい。</p> <p>◆情報データベースとしての図書館 行政からの通知などを、発達障害者、高齢者、外国人にもわかりやすく説明するようなデータベース的な役割が図書館にあるとコミュニティで共有しやすい(身近な情報ツールの紹介・提供など)。</p> <p>◆公共交通機関との連携 アクセスがよい場所なので、公共施設を訪れる公共交通機関とのコラボも考えてほしい。</p> <p>◆若者へのビジネス支援 市の振興につなげるためにも、若者の起業支援をするサービスなどをしてほしい。</p> <p>◆子育て世代の来館促進・読書習慣継続 子育て世代は子育てのために親の読書習慣が途切れてしまいがちであるので、親が読書習慣を継続できるよう、託児支援などを行って読書時間を確保できるような取組をしてはどうか。</p>
委員 I	<p>○子ども図書館 ⇒さらに良くするために： テレビなどでもっと PR してほしい。</p> <p>○小学校の図書館見学 ⇒北九州の未来のために、小さい子がいる保護者から図書館に馴染んでもらえるような取組をしてほしい。</p> <p>◆図書館の「居場所」としての役割強化 不登校児童生徒にとっての居場所のひとつとして、図書館がアプローチしてほしい。</p> <p>◆子どもの情緒を育てる取組 読み聞かせイベント時にピアノや和楽器の演奏を流すなど、演奏者とコラ</p>

	<p>ポしてはどうか。子どもたちはゲームに浸かっている状態なので、図書館が子どもの情緒面の育成にアプローチしてほしい。</p>
委員J	<p>○読書通帳機 ⇒さらに良くするために： 市民センターや地域で活用できるよう、読書通帳を手作りできる方法などをホームページに載せてはどうか。</p> <p>○読み聞かせボランティアの養成(市民センターでとても重宝されている。)</p> <p>○ひまわり文庫の存在 ⇒さらに良くするために： ひまわり文庫の充実を継続してほしい。</p> <p>○学校図書館司書の質の良さ(=子どもの来館時に簡単な英語を使うなど、子どもの読書に対する勧めや来館を促すちょっとした取組をしている。)</p> <p>◆ボランティアのさらなる活用 読み聞かせボランティアだけでなく、本を修理するサポーターを要請するなど、ボランティアの受け皿を増やしてはどうか。ボランティアの活用・連携について、たとえば市民から意見を募るのもよい。</p> <p>◆ホームページの充実 ホームページを見て、「面白い、これはいい。」と思った図書館は実際に足を運びたくなるし、実際に面白い。ホームページをもっと面白くしてほしい。</p>
委員K	<p>○「開館以降のこれまでの歩み(トピックス、ボランティアの数、一番読まれていた本など)」の掲示(小倉南図書館) ⇒さらに良くするために： こういった内容や図書館評価などを、ホームページだけでなく各図書館のいろいろなところで掲示するとよい。同様に、図書館利用をさらに促すために、そういう区切りのタイミングでメディアに取り上げてもらうはどうか。</p> <p>◆地元資源の有効活用 地元サッカーチームと連携して読書推進・来館者増のための冊子を作製するとよい。</p> <p>◆図書館協議会の委員構成 県内の他市のように、20代・30代の方にも委員として参加してもらってはどうか。また、高校・大学世代の若者や、任期を終えた協議会委員からも(委員でなくてもサポーターのような形で)意見を取り入れてはどうか。</p> <p>◆生涯教育との連携 生涯学習施設と協働して、多目的に利用できる施設の建設(改築)を検討してほしい。</p> <p>◆生涯学習要素のあるイベント・講座の実施 図書館は人が集まりやすい場所なので、図書館で生涯学習的なイベントや講座を実施してはどうか。また、各館のそういった情報の収集および広報は今後求められるところである。</p> <p>◆自動貸出機の導入</p>

	<p>他市の図書館では自動貸出機が主流である。自動貸出機を導入する分、ソフト面に職員を活かせるように、今後市民が求めるニーズに向けてソフトすることが、働き方改革とあわせて必要ではないか。</p>
委員L	<p>○図書館カフェ ○ひまわり文庫の充実 ⇒さらに良くするために：親子の読書の機会提供のために、各区役所にある「親子ふれあいルーム」と連携して、ひまわり文庫のような仕組みを取り入れてはどうか。</p> <p>◆家庭での読書活動を推進する取組 ボランティアによる読み聞かせだけでなく、親やきょうだいによる読み聞かせなど、家庭で本・絵本に親しむためのSNSを使った広報を行ってほしい。</p> <p>◆子どもの「対話する力」「認め合う力」を育てる取組 読書をするというインプットだけではなく、自分の意見表明や他者の価値観を認め合える子どもを育てるために、読書を通して感想を共有しあうイベントなどを実施してはどうか。</p> <p>◆図書館の「居場所」としての役割強化 不登校児童生徒がオンラインで教育支援を受ける場のひとつに図書館があってもよいのではないか。不登校児に限らず、図書館だと行きやすいということもあるので期待している。</p> <p>◆カフェのような雰囲気を利用できる図書館 本を通して、多世代が交流できる場をつくってほしい。</p>

4 その他

(事務局)

- ・ 今回協議会の意見取りまとめについて
- ・ 次回協議会の日時について